

2025 年度 入学試験出題方針

旧教育課程履修者への経過措置として、旧教育課程履修者に不利にならないように配慮した出題を行います。

英 語

出題範囲は、公募推薦、一般入試ともに、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」です。

公募推薦の第1問では、400語前後の英文について、正確に情報や大意を把握する力とともに英問英答式の選択問題によりコミュニケーション力を問います。設問は5題を予定しています。第2問は、200語前後の会話文に関しての英問英答式選択問題で、3題を予定しています。コミュニケーション力とともに会話文からの情報把握力を問います。第3問の5題は対話文の空所補充問題で、状況理解力や口語表現への習熟度を問います。第4問は短文空所補充問題で、文法知識や語彙力を問う10題です。第5問は和文対照の選択式整序問題で、英語の語順への習熟度を問います。

一般入試の第1問では、500語前後の英文について、正確に情報や大意を把握する力とともに英問英答式の選択問題によりコミュニケーション力を問います。第2問は200語前後の会話文に関しての英問英答選択問題で、設問は4題を予定しています。コミュニケーション力や会話文からの情報把握力を問います。第3問の5題は対話文の空所補充問題で、状況理解力や口語表現への習熟度を問います。第4問は短文空所補充問題で、文法知識や語彙力を問う10題です。第5問は和文対照の整序式英文表現問題で、英文の構成力を問う5題です。

いずれも、第1問には15～20分、第2問に10～15分、第3問、第4問、第5問にはそれぞれ5～10分の解答時間を要するでしょう。

国 語

出題範囲は、公募推薦入試・一般入試ともに、現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く）です。

出題形式は、公募推薦入試・一般入試ともに、大問二問により構成するものとします。大問の一つは長文読解問題、一つは多数の小問から成る、多様な知識や読解力を問う問題です。

公募推薦の長文読解問題では、高校の教科書レベルの難度・分量の文章を、内容に沿って理解できる力を試します。内容に沿って理解できるとは、自分の意見や感想を交えず、文章そのものに即して内容を読み取る力を指します。これは、大学入学後に大量の文献を読んで情報を収集する作業において基礎力となるものです。2024年度入試では、世界に注目される日本の文化や、情報伝達など、受験生が今後の学生生活で直面すると考えられる話題を取り上げました。

一般入試の長文読解問題では、分量は公募推薦入試と同程度ですが、比較的難度の高い文章を出題します。この場合難度が高いとは、より論旨が複雑であったり、内容が抽象的であったりすることを指し、文脈に応じて論理的に読解ができるかを問います。2024年度入試では、社会問題、思想、メディア関係など、文章のテーマは多岐にわたりました。普段から様々な問題について興味を抱き、表層的な理解に留まることなく、より深く知的に思考する習慣を付けましょう。

公募推薦入試と一般入試のどちらにおいても、漢字や慣用的表現・図表の読解など、大学での授業

で必要とされる常識的な知識の有無を問います。いずれも基本的に難問・奇問はなく、平素の学習の実力がそのまま判る問題とする方針です。また、文章整序の問題が出題されることもあります。これは論理的に文脈を作ることができる力を試すもので、作文力を問う問題です。

数 学

- 公募推薦入試：バイオ環境学部、健康医療学部

数学Ⅰ・数学Ⅱに含まれる「数と式」「図形と計量」「二次関数」「データの分析」「図形の性質」「場合の数と確率」の範囲から4題の大問を出題します。それぞれの大問は、基本的な内容の理解力・計算力と応用力を問う数問の小問により構成されます。

- 公募推薦入試：工学部

数学Ⅰ・数学Ⅱに含まれる「数と式」「図形と計量」「二次関数」「データの分析」「図形の性質」「場合の数と確率」の範囲から2題の大問、および、数学Ⅲ・数学Ⅳ・数学Ⅴに含まれる「いろいろな式」「図形と方程式」「指数関数・対数関数」「三角関数」「微分・積分の考え」「数列」「ベクトル」の範囲から2題の大問を出題します。それぞれの大問は、基本的な内容の理解力・計算力と応用力を問う数問の小問により構成されます。

- 一般入試：経済経営学部、人文学部、健康医療学部

数学Ⅰ・数学Ⅱに含まれる「数と式」「図形と計量」「二次関数」「データの分析」「図形の性質」「場合の数と確率」の範囲から4題の大問を出題します。それぞれの大問は、基本的な内容の理解力・計算力と応用力を問う数問の小問により構成されます。

- 一般入試：バイオ環境学部、工学部

数学Ⅰ・数学Ⅱに含まれる「数と式」「図形と計量」「二次関数」「データの分析」「図形の性質」「場合の数と確率」、および、数学Ⅲ・数学Ⅳ・数学Ⅴに含まれる「いろいろな式」「図形と方程式」「指数関数・対数関数」「三角関数」「微分・積分の考え」「数列」「ベクトル」の範囲から、合計4題の大問を出題します。それぞれの大問は、基本的な内容の理解力・計算力と応用力を問う数問の小問により構成されます。

日本史

出題範囲は、日本史探究に含まれる各時代・各分野について、昨年度までの出題範囲（日本史Ⅱ）からはみ出ない内容で、偏りなく出題します。基礎的な歴史知識を問う問題を中心に、出題形式は四者択一の選択式とします。大問第1問は古代・中世に関する問題を8問、大問第2問は近世に関する問題を8問、大問第3問は近現代に関する問題を8問、大問第4問は全時代通じての特定テーマに関する問題を8問、計32問出題します。大問第1問から第4問までは、各時代の政治・経済・社会・外交・文化に関して、幅広いテーマで出題します。全体として細かい知識の暗記よりも、教科書でゴシックになっている事象についての基礎的な学習を中心に、問題文をていねいに読んで論理的に理解

したり、データ（史料やグラフ・表など）から客観的事実を把握する学びをしておくことが大切です。

世界史

「世界史探求」の教科書に沿って、様々な時代・地域・分野を組み合わせで出題します。具体的には、古代文明の出現から現代までを含み、アジア・アフリカ・ヨーロッパ・アメリカなど様々な地域を取り上げながら、政治・経済・文化・社会の各分野から出題します。11の四者択一問題から成る大問を3つ出題しますので、大問一つにつき20分をかけて解答してください。

設問では、まず教科書の基本的事項をきちんと押さえているかを問います。高校時代に基本的事項をきちんと理解することに努めた人は大学に入ってからでも成長すると期待できるからです。但し、単に重要語句ないし用語を知っているだけではなく、その内容にまで踏み込んで理解していることが必要です。

地理的な位置関係が歴史に影響を与えることがあるので、歴史地図を用いて出題する場合もあります。また、時代を横に切って同時代に世界各地で起きていたことを理解する視角を盛り込んだ問題も出したいと考えています。

物 理

公募推薦入試、一般入試ともに、高等学校の物理基礎および物理の全範囲の中から、計4問出題します。

出題形式は、いずれの入試でも同じです。1つの大問は解答箇所を6カ所含む文章で構成されています。文章に沿って用語や単位、式、計算を伴う数値などを6つの選択肢の中から解答する方式です。

いずれの入試も、教科書に書かれている基本的な内容を正しく理解できているかを確認することを目的としています。具体的には、文章の内容を正しく読み取ることができるか、用語や単位を正しく理解しているか、与えられた物理量から正しい式が組み立てられ変形ができるか、得られた式に数値を代入し正しく計算できるか、ということの確認を目的として出題します。

化 学

高校の化学基礎と化学で学習する内容のうち、「物質の構成と化学結合」「物質の状態」「物質の変化」「無機物質」「有機化合物」「高分子化合物」の中から、分野の偏りが出ないように4題の大問を出題します。全問マークセンス方式で、選択肢の中から正答を選ぶ形式です。公募推薦入試と一般入試で、出題範囲や出題形式に違いはありません。

複数の教科書を参考にし、共通する内容に基づいて基礎的な知識が習得できているかどうか確認することを目的とした問題と、その上で論理的な思考力や知識の習熟度を試す応用問題や計算問題を、バランスよく組み合わせることを心掛けて出題します。教科書では分野をまたいで頻出する物質がみられるため、それらの個々の性質や反応を学習したあとは体系化しておくことが重要です。無機化学では特に、工業的に重要な物質や日常生活と関係が深い物質の性質や合成法を中心に出题する傾向が

あります。有機化学では、物質の構造を整理し、その性質や反応を体系的に理解しておく、広範囲に及ぶ内容を断片的に暗記する必要はなくなるでしょう。身の回りの物質と対応させることで学習の幅が広がり、基礎的な学力が確実に定着するでしょう。

生 物

公募推薦入試では主に生物基礎で学習する分野から出題します。生物基礎では、生命現象の全体像の理解の基礎として分子・細胞レベルで生物の特徴に関して、ヒトの健康や病気の理解の基礎としてヒトの体の調節に関して、また、自然環境の科学的理解の基礎として生態系レベルで生物の多様性に関して、基礎的な知識を問う問題を出題します。生物では、主に「生命現象と物質」「遺伝情報の発現と発生」「生物の環境応答」で学習する内容について、生命現象の仕組みや概念を中心とした基本的な事項や内容を断片的に記憶するのではなく系統的に整理できているかを問う問題設定になっています。

出題形式は各分野での基礎的な用語や数値を選択する問題や記述が正しいか誤りかを判断して正解を選ぶ問題などです。

一般入試では、生物基礎と生物の教科書の全範囲から出題します。生物基礎では、「生物の特徴」「ヒトの体の調節」「生物の多様性と生態系」から複数の分野について、基本的な事項や基本的な考え方を習得しているか確認するための問題を出題します。生物では、「生物の進化」「生命現象と物質」「遺伝情報の発現と発生」「生物の環境応答」「生態と環境」から複数の分野について、基本的な事項や基本的な考え方を断片的でなく系統的に整理できているかを問う問題設定になっています。生命現象や自然環境の仕組みについて暗記による知識の習得だけでなく、興味を持って深く学習に臨んで来たかを問う問題設定になっています。

出題形式は各分野での基礎的な用語や数値を選択する問題や記述が正しいか誤りかを判断して正解を選ぶ問題などです。